

～デンチャーワールド～

高齢化が進み、義歯の重要性は増している半面、義歯に対する国民のイメージは後ろ向きと言わざるを得ない状況ではないでしょうか。

更に、義歯に悪いイメージを抱いているのは患者さんだけとは言えません。日本の歯科技工士の9割が保険の枠で義歯を作っており、苦しい経営を強いられているように見受けられます。また、良い義歯を作るのは難しいと感じている歯科医師も増えているのではないのでしょうか。

そこで患者が待合室で気軽に読める義歯の本「Denture World デンチャーワールド 義歯で口福になるために」を2013年4月にデンタルダイヤモンド社から出版した。超高齢社会において、より多くの国民の幸せを支えるために不可欠と言われながらも、国民からは敬遠されがちな義歯であるが、患者はもちろん、歯科医師、歯科技工士に向けて義歯の魅力を伝えるための本である。

保険で良い物が作れないとは言いませんが、材料や時間の問題を考えると限界があります。最良を考え適正な材料を選び、手間をかければ、もっと様々な質の向上した義歯を製作できるはずです。義歯に対するイメージが良くないのは、良い義歯があるにも関わらず、それを術者、患者双方が知らないことが大きな要因ではないでしょうか。

私は自費専門というよりは、故河邊清治先生の歯科医院に務めていた頃から、現在に至るまで、患者さんのQOL向上を目指したより良い義歯製作するために保険の枠にとらわれずに取り組んできました。

1本の欠損義歯から総義歯まで、私が約40年の間に行ってきた約3,000症例の中から、ほんの教例ですが、素材とテクニックを駆使した義歯を紹介しようと思います。特に私が提唱している修理加工のできるPMMAによる「ノンメタルクラスプデンチャー」やレイヤーデンチャー（積層義歯）の中から金属床とレジン床の良いところ取りをした「CPデンチャー®」、床部のカラーリングをした「カラーレイヤーデンチャー」、レジン床とシリコーンを積層した「シリコーンレイヤーデンチャー」など。その他パーシャルデンチャーに必要な維持装置やフレーム設計など河邊分類法から負担域を考えた設計などを視覚的に分かりやすいように写真から、簡単な特徴とメリット・デメリットをシンプルに解説したい。

患者さんの中からは、「義歯とわからない義歯」を望む声も多く聞かれますが、見た目だけでなく、「痛くなく良く噛める」、「嚥下が良好」、「しっかり発音できる」など機能的な面を重視した作り方も取り上げてみたい。パーシャルデンチャーの基本は「健全歯の保全」と「審美と機能の回復」である。医療人として品位ある義歯を願う。

また今年4月より保険導入になった下顎総義歯のリライニングのデモとしてジグを使ったシリコーンリライニングの材料の特性や失敗しないテクニックを紹介しようと思う。